

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2003-143381(P2003-143381A)

【公開日】平成15年5月16日(2003.5.16)

【出願番号】特願2002-231803(P2002-231803)

【国際特許分類第7版】

H 04 N 1/19

G 06 T 1/00

H 04 N 1/028

【F I】

H 04 N 1/04 1 0 3 A

G 06 T 1/00 4 6 0 M

H 04 N 1/028 B

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月24日(2005.5.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は/及び副走査方向のズレを補正する補正手段とを有し、前記補正手段は、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項2】

請求項1に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、複数の補正データを有し、前記第1のセンサチップ間と前記第2のセンサチップ間とでは、異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項3】

請求項1に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて処理することを特徴とする画像処理装置。

【請求項4】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は/及び副走査方向のズレを補正する補正手段とを有し、前記補正手段は、複数の補正データを有し、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項5】

請求項4に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて処理することを特徴とする画像処理装置。

【請求項6】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする補正手段とを有し、

前記補正手段は、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項7】

請求項6に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、複数の補正データを有し、前記第1のセンサチップ間と前記第2のセンサチップ間とでは、異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項8】

請求項6に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて前記領域を補間することを特徴とする画像処理装置。

【請求項9】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、

前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする補正手段とを有し、

前記補正手段は、複数の補正データを有し、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項10】

請求項9に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて前記領域を補間することを特徴とする画像処理装置。

【請求項11】

請求項1に記載の画像処理装置において、複数配列されたセンサチップから得られた画像を用いて、隣接するセンサチップ間の実装上のズレ量を検知する検知手段を有することを特徴とする画像処理装置。

【請求項12】

請求項1に記載の画像処理装置において、前記複数センサチップの実装上のズレ量が所定値以上の場合、警告を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項13】

請求項2、4、6、7、9のいずれかに記載の画像処理装置において、前記複数のデータは、各々が異なる行列のフィルタであることを特徴とする画像処理装置。

【請求項14】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又はノ及び副走査方向のズレを補正する際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項15】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又はノ及び副走査方向のズレを補正する際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項16】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項17】

それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

また、この発明に係わる画像処理装置において、前記複数のデータは、各々が異なる行列のフィルタであることを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又はノード及び副走査方向のズレを補正する際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又はノード及び副走査方向のズレを補正する際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第1のセンサチップ間と第2のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴としている。